

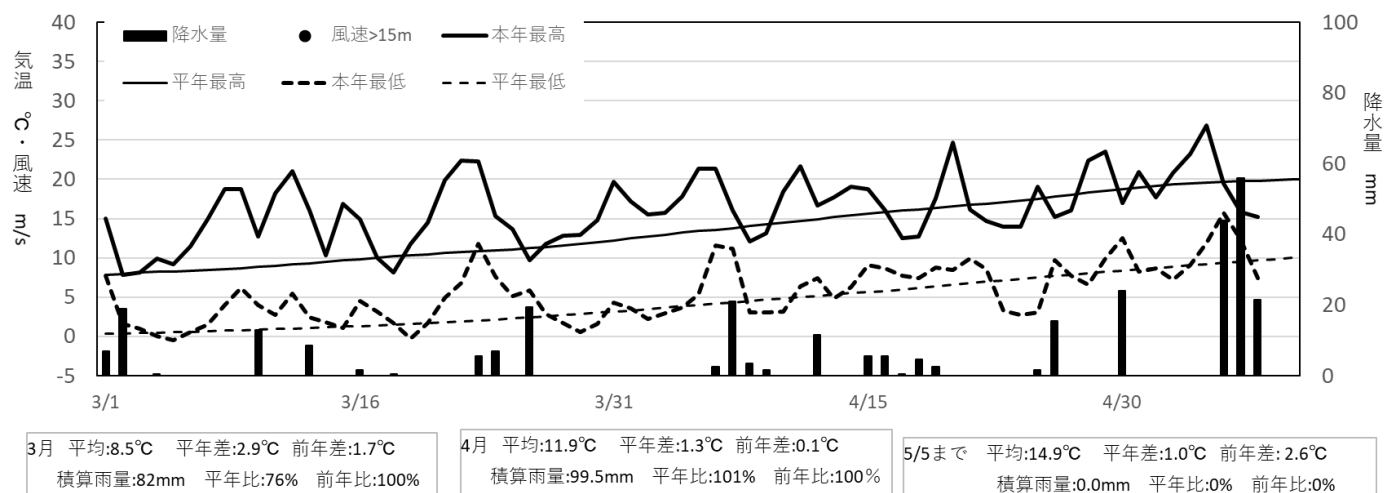
# おけさ柿の生育状況と摘らい方法等について

令和5年5月11日（木）

佐渡農業普及指導センター羽茂分室

## 1 気象経過

羽茂3/1～5/8までの気象



- ・ 3～4月までは平年並～やや高い気温で推移しました。
- ・ 3月第1、第4、第6半旬、4月第1～2、第5半旬に低温が観測されました。

## 2 生育状況等

(1) おけさ柿生態調査（5月9日時点）

品種	調査年	催芽期	発芽期	展葉期	新梢 停止期	開花期		
						始め	盛り	終り
刀根早生 (3園平均)	本年	3/17	3/24	4/7	4/26	(5/21)	(5/23)	
	前年	3/26	4/7	4/17	5/15	5/26	5/29	6/1
	平年	3/17	4/3	4/18	5/14	5/29	6/1	6/3
平核無 (6園平均)	本年	-	3/24	4/6	4/29			
	前年	-	4/7	4/18	5/16	5/26	5/29	6/1
	平年	-	4/3	4/18	5/15	5/30	6/1	6/4

- ・ 催芽期以降、発芽期、展葉期、新梢停止期は平年より早いペースで進みました。
- ・ 4月30日時点での開花予測は、刀根早生の開花始めが最も早く5月20日と、平年よりも**9日早い**です。ただし、開花期については今後の気温推移と各園地の状況により、予測と大きく異なる場合があります。**開花直前の防除については、必ず各自の園地状況をよく確認してから行ってください。**
- ・ 円星落葉病の孢子飛散時期を羽茂アメダス平均気温積算値から予測すると、**飛散開始は4月20日（平年5月2日）、飛散盛期は6月5日（同6月13日）**と早まっています。

(2) 着らい時期調査 (5月9日実施)

品種	調査年	平均 母枝長 (cm)	平均 新梢長 (cm)	母枝当 葉数 (枚)	母枝当 葉果比	母枝当 新梢数 (本)	母枝当 着らい数 (個)	着らい 新梢率 (%)
刀根早生 (3園平均)	本年	22.4	14.2	31.7	7.3	5.3	17.3	85.6
	前年	19.0	18.6	32.5	8.0	4.8	15.5	84.7
	平年	16.6	15.1	28.2	-	3.7	12.8	89.4
平核無 (6園平均)	本年	22.5	17.9	35.5	8.2	5.0	17.6	89.6
	前年	19.8	21.7	34.9	8.8	4.8	14.8	83.4
	平年	17.8	16.5	28.1	-	4.0	11.6	84.1

注) 母枝当たり葉果比は1枝1らいとした場合の数値

- ・着らい数は、両品種とも前年・平年よりも多くなっています。
- ・着らい枝率は、「平核無」では前年及び平年よりやや高く、「刀根早生」では前年並だが平年よりも低くなっています。

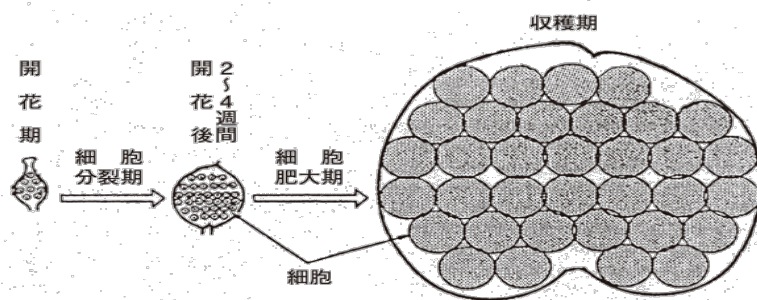
(3) 摘らいとは

- ・摘らいとは、5月上中旬から花が咲くまでの間につぼみを摘む作業のことです。つぼみを制限し、残したつぼみに養分を集中させ肥大を促進させるとともに、生理落果を防ぐ、次年度の花芽形成を促進する等の効果が期待できます。



開花盛期の14日前頃から開始し、開花までには1枝1らいに!

※果実は最初、細胞分裂が盛んで細胞数の増加によって子房(果実)が大きくなりますが、開花後1ヵ月(30日)頃から細胞分裂をしなくなり、その後は個々の細胞肥大によって果実が大きくなります。大玉生産には摘らいによる最初の細胞分裂を促すことが重要です。



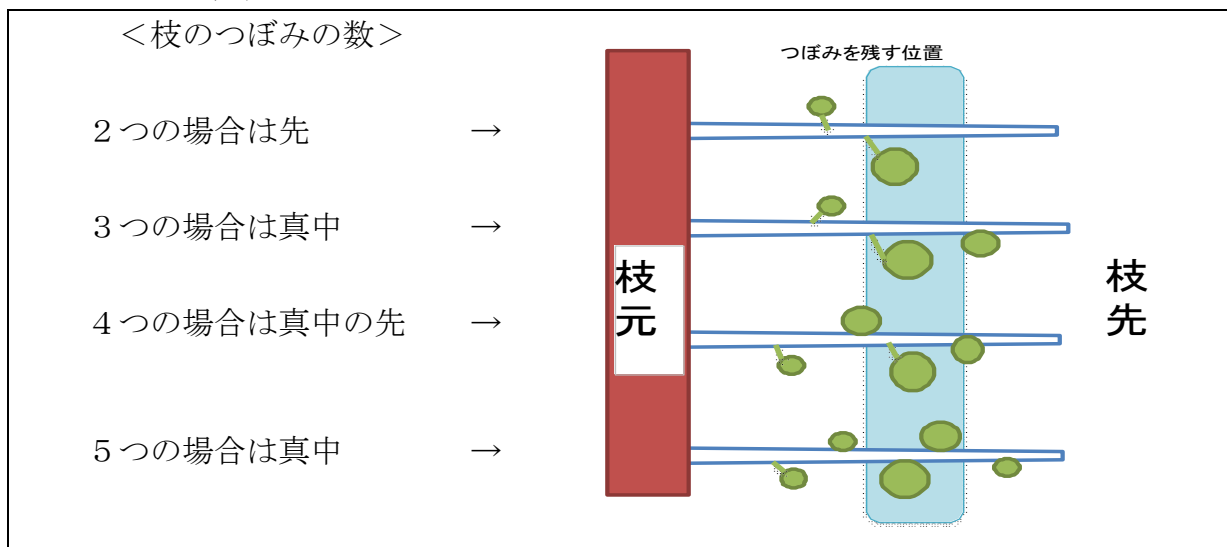
・実施時期

開花盛期の14日前頃から開始し、開花直前には終了する。

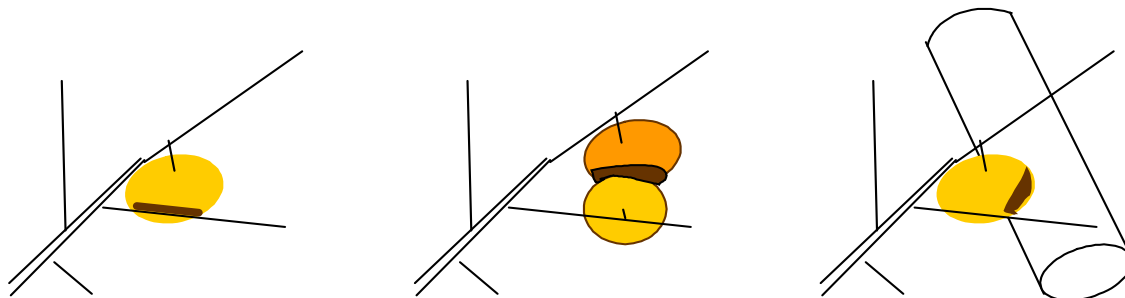
・方法

- ① 原則、**1枝1らい**とし、葉数が4枚以下の場合は全て落とす。
- ② 複数の蕾が着生している場合、**真ん中からやや先端の下向き**の蕾を残す。
- ③ 「へた」が4片あり、大きさ・形が整っていることを確認し、将来の肥大や枝との間隔を考慮しながら実施する。

< 残すつぼみの位置 >



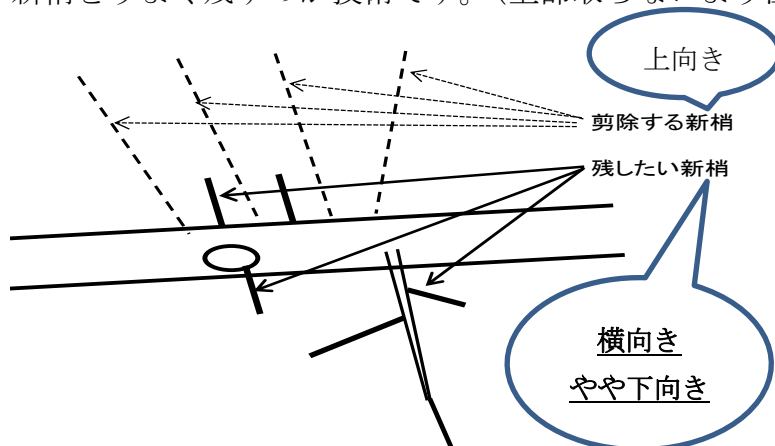
なお、肥大後の果実を予測して、傷の付かない果実を選別する。



新梢管理等

《ポイント》

新梢をうまく残すのが技術です。(全部取らないよう注意しましょう)



※ただし、枝がないところは立った枝も残す

※立った枝も基部を残すと来年横向きの枝が発生することがある。

### 3 農作業事故に注意 **焦らず！ 急がず！！ 慎重に！！！！**

#### (1) スピードスプレーヤー、乗用草刈り機等

近年、スピードスプレーヤー等による死傷事故が目立っています。最も多いのが転倒・転落事故で、次に枝や支柱と機械の間に体が挟まれるケースが多くなっています。

下記の事故防止ポイントをチェックし、農作業事故ゼロを目指しましょう。

#### ア 事前対策

- ・ 走行路に張り出した枝の除去・作業道の設備  
(走行路の幅を乗用SSでは2m、歩行用SSでは1m以上を確保)
- ・ 園内道の危険箇所の補修と障害物の撤去
- ・ 路肩が確認できるよう除草
- ・ 安全装置の点検・整備
- ・ 休憩を考慮した、無理のない作業計画
- ・ 行き先を家族などに知らせておく

#### イ 転倒・転落対策

- ・ スピードを出しすぎない。
- ・ 脱輪による転倒・転落に注意する。
- ・ **旋回や後進は周囲の状況を目視で確認。**
- ・ 土手への接触や乗り上げによる転倒に注意する。
- ・ わだちにハンドルを取られることがあるので、スピードを落とし、路面状態に注意して走行する。
- ・ 下り坂やスピードが出た状態では急ハンドルを切らない。

#### ウ 衝突・挟まれ対策

- ・ 張り出した枝は除去する。(枝は毎年伸びます)
- ・ 低い枝や幹・支柱等の障害物には目印をつける。
- ・ 後方や側方の散布状態に気をとられず前方に注意する。
- ・ 駐車ブレーキ等、レバーの操作は確実に行う。

#### (2) 刈払機

刈払作業では、切断した草・小石等がたくさん飛んできます。また、草むらの中には、異物が隠れていることがあります。

万が一のために、自身も保護具で守りましょう。

#### ア 対策ポイント

- ・ 手袋、安全靴、保護メガネ又はフェイスシールド、イヤーマフ、すね当て、その他の保護具を着用する。
- ・ 保護メガネには、曇り止めを塗る。
- ・ エンジンに触れた時の火傷、刈刃の交換時の切り傷を防ぐためにも、必ず手袋を着用する。